

医療連携室だより 第15号

平成18年10月発行 公立置賜総合病院医療連携室 ☎0238-46-5000 内線1901,1902



診療報酬改定雑感

診療部長 薄場 修
(外科系一)

2年に一度診療報酬の改定が行なわれています。増え続ける財政赤字に頭を抱える政府はなりふり構わず、患者と診療者側の痛み分けと称してこの4月、平均3%超の診療報酬の引き下げを断行しました。これに対しマスコミの反応は極めて鈍く、半年遅れでやっと9月24日の朝日新聞に診療報酬改定がいかに現場の医療を無視したものであるかを報じています。言わずと知れた今回改悪のリハビリ制限問題です。これまでも診療報酬改定はその度ごとに大きな問題を抱えてきました。診療報酬の加算点数により手術を特定の医療機関に限定しようとして、その手術件数が多い病院にのみ加算点数を設けました。医学界以外からも批判が相次ぎ、今回の改定では廃止してしまいました。そもそも現行の健康保険制度の元で、診療報酬を引き下げればどのような事が起こるか誰でも予想が着きます。

病院内感染対策を例にあげて言えば、昔は病棟にベースンが置かれ、手指消毒剤が注がれた姿が病棟の廊下の一般的な光景でした。昨今そんな病院で院内感染のアウトブレイクを起こそうものならば、それこそマスコミの餌食になってしまいます。入院患者用の排泄後の手洗い手拭ペーパーの設置、速乾性手指消毒剤の設置等々、10年前には考えられなかった支出が迫られています。気管支鏡検査室に結核菌などの飛沫感染を防ぐための専用の空調機器を入れようとしても、それは診療報酬には全く反映されず、病院の持ち出しとなります。針刺し事故防止のために、内筒針が穿刺後ワンタッチで格納されてしまう点滴留置針も10年前にはありませんでした。医療費の増大には介護保険も含め、この巨大な医療産業市場に多数の民間会社が参入し、巨額の資本を投じ、手指消毒剤、空調機器、針刺し防止機構付き留置針など、数多くの新製品を次々と開発している経済背景が関わっています。

そのような背景を無視し診療報酬を下げて、国民健康保険の赤字を解消しようとしても全く問題の解決にならないばかりか、国民が気軽に診療が受けられる病院を疲弊させ、ひいては医療レベルを下げざるを得なくなるのは火を見るよりも明らかと言わざるを得ません。厚生労働省は医療現場の実情をこれまで十分に把握していないふしがあり、近年レセプトに主病名を付けさせ、さらに、DPCで各々の疾病あたりどのくらいの医療費が掛かるかをコンピュータ上で計算し、把握しようと試みているようです。正に彼らの机上の計算による思いつき診療報酬改定によって、私たちの医療現場が右往左往しているといっても過言ではないと思えてならないのです。

公立置賜総合病院等の患者動向(平成18年4月～平成18年9月)

(1日平均外来及び入院患者数・病床利用率)

(1日平均外来患者数)

(単位:人/日)

区分	基幹病院			サテライト医療施設				合計	飯豊診療所	(参考) 総計
	総合病院	救命救急センター	計	長井病院	南陽病院	川西診療所	計			
平成18年4月	946.7	66.4	1,013.1	241.1	236.1	98.7	575.9	1,589.0	55.3	1,644.3
平成18年5月	971.0	75.7	1,046.7	250.2	239.8	85.4	575.4	1,622.1	46.1	1,668.2
平成18年6月	938.8	63.5	1,002.3	230.1	220.5	87.5	538.1	1,540.4	42.8	1,583.2
平成18年7月	981.1	65.7	1,046.8	249.7	242.5	92.2	584.4	1,631.2	45.6	1,676.8
平成18年8月	955.2	67.5	1,022.7	222.7	217.7	89.0	529.4	1,552.1	43.7	1,595.8
平成18年9月	960.3	64.2	1,024.5	237.9	223.2	91.7	552.8	1,577.3	49.3	1,626.6

(1日平均入院患者数)

(単位:人/日)

区分	基幹病院				サテライト医療施設					合計
	総合病院		救命救急センター	計	長井病院			南陽病院	計	
	一般	精神			一般	精神	計			
定床	480	20	20	520	50	60	110	50	160	680
平成18年4月	461.8	17.1	15.0	493.9	44.5	54.8	99.3	49.0	148.3	642.2
平成18年5月	450.4	18.2	16.5	485.1	43.7	51.1	94.8	49.8	144.6	629.7
平成18年6月	452.1	17.1	14.2	483.4	48.2	51.2	99.4	49.1	148.5	631.9
平成18年7月	438.1	14.4	14.3	466.8	45.9	55.1	101.0	50.3	151.3	618.1
平成18年8月	458.3	15.7	15.1	489.1	45.4	55.0	100.4	46.5	146.9	636.0
平成18年9月	460.6	18.3	15.2	494.1	47.7	51.2	98.9	49.0	147.9	642.0

(病床利用率)

(単位:%)

区分	公立置賜総合病院				サテライト医療施設					合計
	総合病院		救命救急センター	計	長井病院			南陽病院	計	
	一般	精神			一般	精神	計			
平成18年4月	96.2%	85.7%	74.8%	95.0%	89.0%	91.3%	90.2%	98.0%	92.7%	94.4%
平成18年5月	93.8%	90.8%	82.4%	93.3%	87.5%	85.2%	86.2%	99.6%	90.4%	92.6%
平成18年6月	94.2%	85.3%	71.2%	93.0%	96.5%	85.4%	90.4%	98.1%	92.8%	92.9%
平成18年7月	91.3%	71.9%	71.3%	89.8%	91.7%	91.8%	91.8%	100.5%	94.5%	90.9%
平成18年8月	95.5%	78.5%	75.5%	94.1%	90.8%	91.7%	91.3%	93.0%	91.8%	93.5%
平成18年9月	96.0%	91.3%	76.0%	95.0%	95.3%	85.4%	89.9%	98.0%	92.4%	94.4%

【外来患者数】

基幹病院は、救命救急センターも含めて1日平均1000人を超えて推移しております。延べ患者数の市町村別割合は、長井市26%、南陽市23%、川西20%、飯豊町10%で当院の構成団体系市町で約8割を占めております。構成団体以外で約2割を占めており、その内訳は、米沢市3%、高畠町6%、白鷹町6%、小国町5%、その他県内と県外で1%となっております。

一方、サテライト医療施設も当初見込みの患者数でほぼ推移しておりますが、前年度からは減少傾向であります。

【入院患者数と平均在日数】

基幹病院は、患者数と病床利用率が当初見込みをわずかですが上回って推移しております。延べ患者数の市町村別割合は、長井市24%、南陽市27%、川西15%、飯豊町9%で当院の構成団体系市町で約8割弱を占めております。構成団体以外の内訳は、米沢市5%、高畠町6%、白鷹町7%、小国町5%、その他県内と県外で2%となっております。

また、サテライト医療施設の長井病院と南陽病院は、当初見込みの患者数と病床利用率がほぼ同数で推移しておりますが、前年度からはやはり減少傾向であります。

当日に、救命救急センターの診療を希望される場合

当日に、救命救急センターの診療を希望される旨のお電話と紹介状をいただきたいと思ひます。

(1)一般外来の受付時間 11 時 30 分までは、傷病の当該科医師にお電話下さい。

紹介を受けた医師が、一般外来で診療するか救命救急センターで対応するかを判断させていただきます。

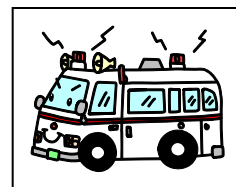
(2)11 時 30 分以降のご紹介の場合には、直接、救命救急センターへ電話をお願いします。

いずれの場合にも、ご紹介の電話と当該科医師宛の診療情報提供書の F A X を救命救急センター宛てにお願いいたします。そうしますと、早期に手術室、心カテ室、内視鏡室等の手配と、担当医師の確保が可能になります。また、来院手段として救急車を利用される場合も、上記を基本とさせていただきます。

(3)当該科が特定できない患者さん、一刻を争うような瀕死状態の患者さんに関してはこの限りではありませんので、そのような場合には直接救命救急センターにお電話下さい。

(救命救急センター 46-5800、FAX46-5801)

当院の救命救急センターでは救急車搬送患者さんのほぼ全例と、他施設から紹介された患者さんは基本的にお断りなく受け入れております。既往歴や原病歴等の情報が全くない患者さんも、救急隊の連絡から 1 ~ 2 分で搬入されてくるものがしばしばあります。そのような傷病者に対して、処置が遅滞して生命の危険にさらされないようにしておりますが、ご紹介の連絡は有用ですので、ご理解の上ご協力をお願いいたします。(文責 岩谷センター長)



総合病院の上手な利用の仕方 パート 2

POINT 3

紹介状をお持ち下さい

かかりつけ医からの紹介状をお持ちいただきますと、今までの治療経過を活かして当院の診療がスムーズに行えますので、ご協力をお願いいたします。

また、かかりつけ医からあらかじめ連絡をいただき、来院日の調整(外来予約)をすることにより、当日はお待たせすることなく、受診される診療科へご案内することが可能となります。

紹介をいただき、当院での検査や治療が終了したら、今度は当院からかかりつけ医に治療経過を報告し、その後のかかりつけ医での治療に役立てます。

このように紹介状がかかりつけ医と当院の架け橋となり、より適切な医療を受けられるようになります。

POINT 4

お近くの先生をご紹介します

現在当院で定期的に治療されて、その後の治療をお近くの医院でとご希望される方は、遠慮なく担当医師・看護師にお話下さい。ご希望をお伺いして、お近くの医院にご紹介いたします。



ご紹介後であっても症状に変化がありましたら、いつでも遠慮なくご連絡下さい。外来診療時間内であれば各科外来に、休日・時間外であれば救命救急センターで診療いたします。

また、当院では患者さんがかかりつけ医と協力して診ていくために、登録医制度を行っています。現在、置賜管内 161 名の医院や歯科医院の先生方よりご登録いただいております。

公立置賜総合病院医師一覧

院長	山口 一	小児科		眼科	
副院長(兼)診療部長(兼)臨床工学室長(兼)放射線部長	加藤 滉	科長	仁科 正裕	科長	梅津 由子
副院長(兼)教育研修部長	豊野 充	医師	木島 一己	医長	寺島 和人
		医師	奥山 志野	医師	高橋 知美

内科		精神科		耳鼻咽喉科	
【消化器】		科長	赤羽 隆樹	科長	吉田 信
診療部長(兼)人間ドック室長	鵜飼 克明	医師	鈴木 春芳	医師	大竹 祐輔
科長(兼)内視鏡室長	渡辺 晋一郎	医師	竹内 幸宏	医師	鈴木 祐輔
医長	秋山 直				
医長	武田 忠				
医師	大村 清成				
医師	服部 悦子				
医師	安藤 嘉章				
医師	岩野 大輔				
医師	熊澤 豊				
医師	矢尾板 孝夫				
研修医	富田 恭子				

		外科		皮膚科	
		診療部長(兼)外科(一)科長	薄場 修	医長	紺野 隆之
		医療連携部長(兼)診療情報管理室長(兼)呼吸器外科	山田 昌弘	医師	紺野 恵理子
		外科(二)科長	小澤 孝一郎		
		医長	橋本 敏夫		
		医長	東 敬之		
		医師	木村 真五		
		医師	高須 直樹		
		医師	間瀬 健次		
		医師 研修医	山岸 岳人		

				泌尿器科	
				診療部長(兼)科長	久保田 洋子
				医長	大地 宏

【呼吸器】				放射線科	
科長	稲毛 稔			科長	伊東 一志
医師(兼)救命救急センター医師	武田 宰				
医師	荒生 剛				
医師	片桐 祐司				

		整形外科		麻酔科	
		科長(兼)リハビリテーション室長	林 雅弘	科長	山口 勝也
		医長	豊島 定美	医長	鈴木 香織
		医長	後藤 文昭		
		医長	佐藤 哲也		
		医長	井上 林		
		医師	土屋 篤嗣		
		医師	鈴木 勝		
		医師	岩崎 聖		

【糖尿病・内分泌】				歯科口腔外科	
科長(兼)栄養科科長	江口 英行			科長	安川 和夫
				歯科医長	山森 郁
				歯科医師	平 幸雄

【腎臓・透析】		脳神経外科		臨床検査部	
人工透析室長(兼)医師	市川 一誠	診療部長(兼)科長	金城 利彦	部長	布山 繁美
医師	池田 亜美	医長	黄木 正登		
		(兼)救命救急センター医長	山田 裕樹		
		研修医			

【血液】		心臓血管外科		救命救急センター	
輸血部長	佐藤 伸二	科長	後藤 智司	センター長	岩谷 昭美
医長	吉野 真人	医長(兼)救命救急センター医長	小鹿 雅隆	副センター長	佐藤 光弥

循環器科		産婦人科		臨床研修医	
科長	結城 孝一	科長	沼崎 政良	教育研修部 研修医	梁 秀蘭
医長	角田 裕一	医長(兼)救命救急センター医長	森 敏恵	教育研修部 研修医	大木 望
医師	奥山 英伸		山谷 日鶴	教育研修部 研修医	星川 仁人
医師	石野 光則		佐藤 絢子	教育研修部 研修医	横山 森良
医師	屋代 祥典				

(平成18年10月10日現在)